

長崎県立長崎式見高等学校の跡地活用策

問 平成20年3月末をもって廃校となった県立長崎式見高等学校は、現在何ら活用方針や具体策もないまま廃校時の状態である。最終的な決定権は県にあることは理解しているが、市として式見地区の活性化のためにどのような活用しようとしているのか。

答 閉校後、地元の跡地活用協議会と検討を行ってきたが、具体的な活用方法は見出せていない。本年6月に県は、平成24年3月末までを公的利活用の検討期間とし、その間に活用策がなければ、民間へ売却を進めることで民間の力も借りた活用策を見出したいとの見解を出している。地元からは仮に売却となった場合でも地元の意向に沿った活用となるよう配慮してほしいと意見をいただいている。今後とも、県とも連携し、地元の要望に沿った活用が図られるよう取り組んでいきたい。

ライトアップによる工場夜景の創出及び夜景観光クルーズの実施

問 夜景がまちの景観の付加価値として注目を浴びる中、夜景の景観資源として、長崎造船所等をライトアップし、

工場夜景を創出するとともに、クルーズ船による観光施策を実施することについての見解を伺いたい。

答 長崎造船所のドック、工場建物及び大型クレーン等の施設のライトアップやその夜景を鑑賞するクルーズは、滞在型観光を推進するうえで大変魅力的なものと考えている。しかしながら、民間との協力、ライトの設置、維持管理などの協議や調整、また、クルーズを実施する民間船会社の参画も必要になるなど、多くの課題がある。今後民間事業者との協議を十分に行い、その可能性について調査していきたい。



鍋冠山からの夜景

公明党

野母崎田の子地区の活性化

問 野母崎田の子地区には、物産館、プール、軍艦島資料館、水仙の里、温泉等があるが、地区一帯の活性化に向けた今後の構想があるのか。合併地域

の振興に際しては、過疎対策事業債や合併特例債等の財源があるが、利用できる期間が限定され、早急な着手が必要と考えるが、見解をお尋ねしたい。

答 田の子地区の活性化に当たっては、現在分散している施設の整理、物産センターや水仙の里公園などの駐車場不足、野母崎海の健康村への観光客のスムーズな誘導などの課題がある。解決に向けて過疎対策事業債や合併特例債の有利な財源の活用を念頭に置きながら検討する必要がある。現在策定中の地域振興計画を見据えながら、スピード感をもって地域のさらなる活性化に取り組んでいきたい。



軍艦島資料館

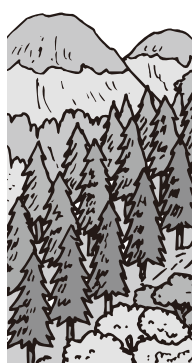
発達障害児支援

問 本市における発達障害児数等の現状を示していただきたい。また、発達障害児への対応を行っている市障害福祉センターについて、発達障害の早期発見、早期療育のために同センターの機能を拡充する必要があると思うが、考えを伺いたい。

答 市教育委員会の調査において、発達障害と診断名がある児童生徒は特別支援学級も含め、小学校は390人で全体の1.8%、中学校は107人で1.0%という結果であった。同センターは、発達障害児支援の中核施設の役割を果たしていることから、相談支援、診断・療育支援、就労・生活支援など各分野の支援状況を検証しながら、機能を強化し、さらなる充実に取り組んでいきたい。

長崎市森林整備計画の考え方

問 国の新たな森林整備基本計画に基づく本市の森林整備計画の策定が迫っているが、国が示す新たな法改正のもとで、どのように取り組もうとしているのか、計画策定に当たった考え方や課題をお示しいただきたい。



答 森林整備計画は市町村が5年ごとに策定する10年間の計画であり、適切な森林整備を目的としたマスタープランとなるものである。新しい計画の策定に当たっては、国の改正の趣旨に十分留意するとともに、本市の林業の実情を踏まえ、林業関係団体と調整を図